

平成25年度決算による連結財務書類を作成

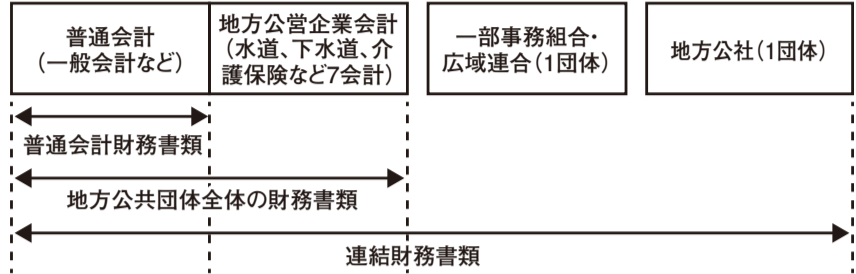


市では、新地方公会計制度における総務省方式改訂モデルによる連結財務書類4表を作成しました。

問 財政課 ☎ 306

連結財務書類4表とは？

財務書類とは、民間企業の考え方を基に作成した市の決算書です。財務書類にはいくつかの作成方法がありますが、八潮市では「総務省方式改訂モデル」に基づき作成しています。財務書類は、右図のように「普通会計財務書類」「地方公共団体全体の財務書類」「連結財務書類」の3つに分けられます。連結財務書類では、市だけでなく出資法人などの関係団体も含まれます。財務書類4表とは、1.行政コスト計算書、2.資金収支計算書、3.純資産変動計算書および4.貸借対照表を指します。



【連結対象】普通会計／公営事業会計(国民健康保険、公共下水道、介護サービス、宅地造成、介護保険、後期高齢者医療、上水道)／一部事務組合(東埼玉資源環境組合)／地方公社(八潮市土地開発公社)

1.行政コスト計算書

行政コスト計算書は、平成25年度に八潮市と関係団体がサービスを提供するために費やしたヒト・モノ・カネの状況を示しています。経常収益には公営住宅の家賃などサービスの対価だけが計上され、税金は計上されません。

経常行政コスト 414億円

内 訳	①人にかかるコスト (職員給料、議員報酬、退職金など)	60億7千万円
	②物にかかるコスト (消耗品費、維持補修費や委託料など)	130億5千万円
	③移転支的コスト (社会保障給付、補助金など)	204億2千万円
	④その他のコスト (公債費の利子など)	18億6千万円

−

経常収益(使用料、手数料など) 132億4千万円

||

純経常行政コスト(経常行政コスト − 経常収益) 281億6千万円

2.資金収支計算書

資金収支計算書は、現金の流れを示しています。

期首資金残高(24年度末資金額) 55億6千万円

+

当期収支(①+②+③)
①経常的収支……………75億7千万円
②公共資産整備収支……………△15億9千万円
③投資・財務的収支……………△50億5千万円
9億3千万円

||

期末資金残高(25年度末資金額)
(期首資金残高 + 当期収支) 64億9千万円

3.純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に純資産がどのように増減したかを示しています。

期首純資産残高(24年度末純資産額) 1,180億3千万円

+

当期変動高(①から⑥までの計) 9億2千万円
①純経常行政コスト……………△281億6千万円
②一般財源等(市税、地方交付税など)…182億8千万円
③補助金等収入……………106億4千万円
④臨時損益……………△2千万円
⑤資産評価替・無償受入……………1千万円
⑥その他……………1億7千万円

||

期末純資産残高(25年度末純資産額)
(期首純資産残高 + 当期変動高) 1,189億5千万円

4.貸借対照表

貸借対照表は、どれだけ資産や現金があるか、その資産がどのような財源で構成されているのかを示しています。下の表は左に市の資産、右に負債と純資産を示しています。

資産 1,878億1千万円 ※現在、市が保有している財産	負債 688億6千万円 ※借入金など、将来世代が負担する金額
内 訳	内 訳
①公共資産(道路、学校、公園など) 1,539億7千万円	①固定負債(市債など) 605億6千万円
②投資等(基金、出資金など) 148億2千万円	②流動負債(翌年度償還金など) 83億円
③流動資産 (手持ち資金64億9千万円、未収金など) 190億円2千万円	純資産 1,189億5千万円 ※これまでの世代がすでに負担した金額で次世代に引き継ぐ正味価値の総額
合計 1,878億1千万円	合計 1,878億1千万円



これらの表から分かること

- 経常行政コストでは、社会保障給付など福祉のコストが約52パーセントを占める高い割合になっています。
- 市民1人当たりの資産は約221万円、負債は約81万円です。